

大事な家族を想う「食の安全・安心」

ヨコレイ NOTE VOL.12

第67期中間報告書

(平成25年10月1日～平成26年3月31日)

ごあいさつ・財務ハイライト P1

What's ヨコレイ VOL.2 P2

食品販売事業 編

営業の概況・事業別の概況 P3

中間連結財務諸表(要約) P4

会社情報 P5

シリーズ企画 P6

世界の食事情② 畜産品の需給状況



「人」に「もの」に「地球」に “優しい” 食品流通のエキスパート

株主の皆さまにおかれましては、日頃のご支援に対し、厚く御礼申し上げます。

第67期中間期(平成25年10月1日から平成26年3月31日まで)の経営環境は、企業収益の改善のもと設備投資が持ち直し、雇用環境の改善に支えられた個人消費が底堅く推移するなど、緩やかな回復基調を示しましたが、電力費の値上げや消費増税後の先行き懸念もあり、依然として不透明さを残した経営環境が続いております。

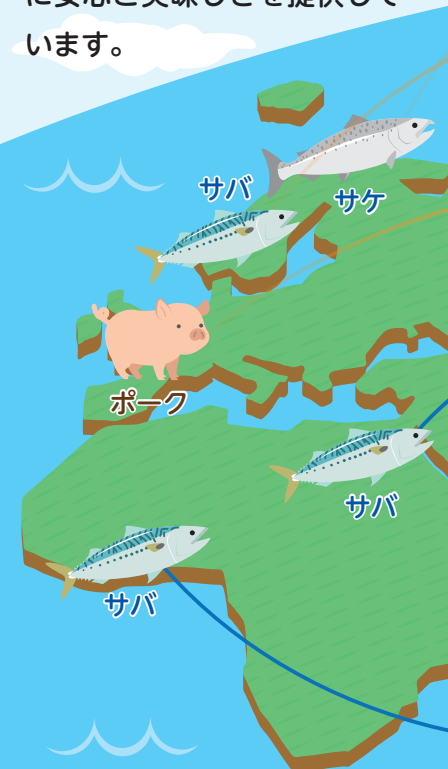
このような状況のもと冷蔵倉庫事業は東日本大震災以降続いた高在庫状態は解消され、在庫水準は落ち着きを見せており、荷動きも活発になって来ました。食品販売事業は水産品・畜産品ともに相場が一昨年の大幅な下落から反転し、主力商材については高値推移が続くタイトな状況となっています。

当社グループは、平成23年10月にスタートさせました第四次中期経営計画(3カ年)が当期で最終年度を迎え、事業運営方針の柱である「コア事業の強化」と「成長力の強化」に基づく業績向上に向けた各施策に注力しております。

株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **吉川 俊雄**

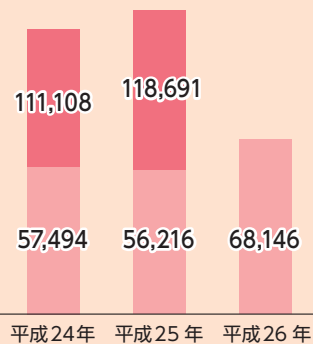
仕入から販売まで一元管理による品質管理を行うことで、マーケットが求める安全・安心な水産・畜産・農産品を国内外から調達し、食品メーカー、卸、問屋、量販店などへ販売することで日本の食卓に安心と美味しさを提供しています。



財務ハイライト

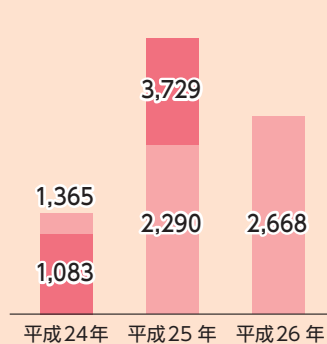
売上高 (百万円)

■ 中間 ■ 通期



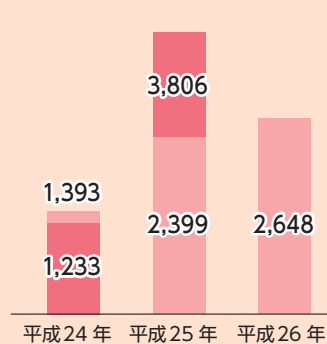
営業利益 (百万円)

■ 中間 ■ 通期



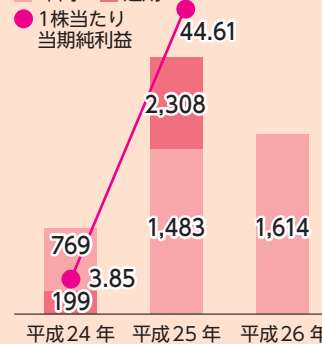
経常利益 (百万円)

■ 中間 ■ 通期



中間(当期)純利益(百万円) / 1株当たり当期純利益(円)

■ 中間 ■ 通期



こだわりの食材を世界から日本、日本から世界へ

● 平成25年9月期売上構成

多様なニーズに対応した 商品調達力



国産品や世界各国の商品ニーズに的確に対応できる調達力を持っています。平成24年に輸出入の拡大・強化を目的とした海外事業部を新設したのをはじめ、グループ間ネットワークを駆使した調達を行っています。

海外戦略を強化

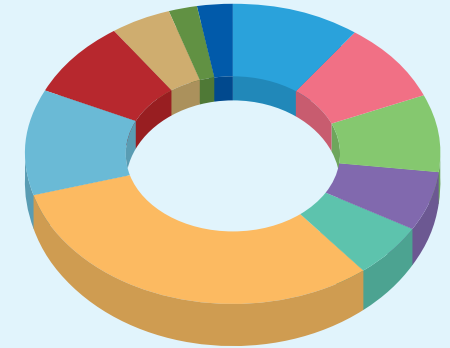


平成25年7月にタイ・バンコク市にYokorei Co.,Ltd.を設立し、原料サプライヤーとしての強固な体制固めを行いました。グループ内の連携を強化した輸出入取引の拡大を推進し、その効果が表れてきています。

食卓に安全・安心を お届けする品質管理



営業担当者が世界各国の原料生産者の選定から輸入・保管・販売までを一元管理することで各プロセスのトレーサビリティを徹底することができ、安全・安心を実現しています。



■ エビ ■ 鮭鱒 ■ サバ ■ ホタテ ■ ウナギ ■ 他水産品
■ ポーク ■ チキン ■ ビーフ ■ 他畜産品 ■ 農産品他



営業の概況・事業別の概況



営業の概況

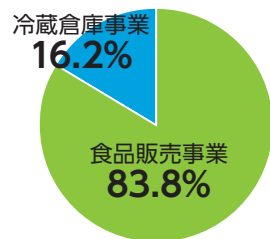
当中間期の概況

- 冷蔵倉庫事業は、東日本大震災以降続いた高在庫状態が解消。在庫水準は落ち着きを見せており、荷動きも活発化。
- 「物流アウトソーシングサービス」は全物流センターに浸透・定着。期初に独立・設置した「物流通関部」も収益機会を拡大し、通関収入の増加により業績に寄与。
- 食品販売事業は、水産品・畜産品ともに相場が一昨年の大幅な下落から反転。主力商材は高値推移が続くタイトな状況。

事業別売上高構成比

当中間期（平成26年3月期）
売上高合計

68,146百万円



通期の見通しと業績予想

冷蔵倉庫事業は、拠点機能の拡充と物流アウトソーシングサービスの拡大により、下半期も順調な推移を見込みます。食品販売事業は、引き続き適切な在庫量のもとで回転率向上に注力し、利益を確保します。通期業績は両事業の増収増益を見込み、以下の通り中期経営計画の最終年度目標達成を予想します。

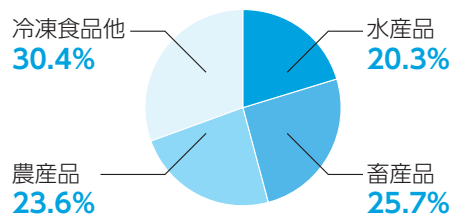
売上高	1,300	億円
営業利益	45	億円
経常利益	45	億円
当期純利益	25	億円
1株当たり当期純利益	48円31銭	

事業別の概況

冷蔵倉庫事業

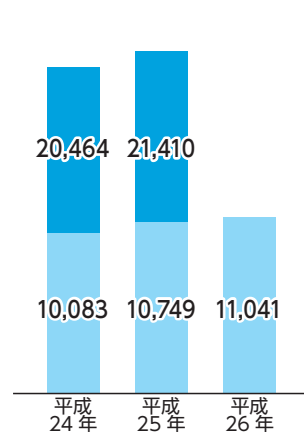
- 貨物取扱量は、円安による外貨品の減少を内貨品でカバー。入庫取扱量は前年同期比で約17千トン、出庫取扱量は約2千トン増加。平均保管在庫量は1.4%減。
- タイヨコレイ(株)は、ワンノイ物流センター2号棟が完成。入出庫とも順調に推移し、増収増益。
- 当事業の業績は、売上高11,041百万円（前年同期比2.7%増）、営業利益2,860百万円（同3.7%増）の増収増益。

当中間期在庫量品目別割合



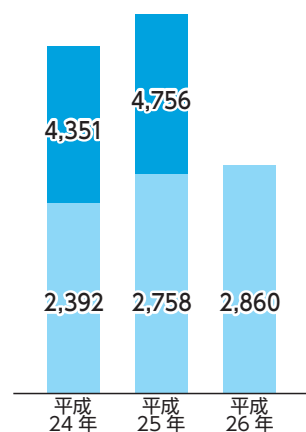
売上高

■ 中間 ■ 通期 (百万円)



営業利益

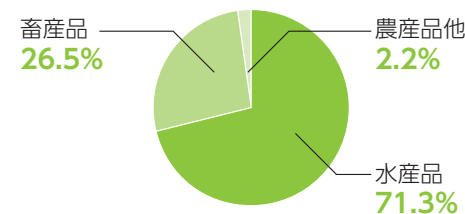
■ 中間 ■ 通期 (百万円)



食品販売事業

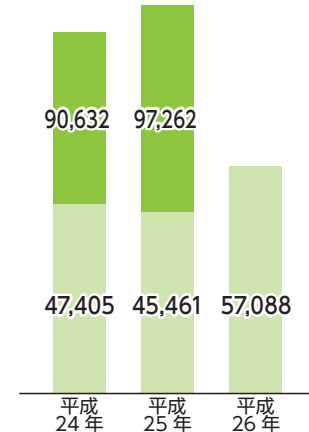
- 供給量が減少した輸入鮭鱒類、エビ、サバが売上・利益に寄与し、カニ類も大きく利益貢献。ウナギは、シラスの豊漁で市場の先安観から在庫価格が下落し、増収減益。
- 畜産品は、ポークがEU輸入品取扱の増加により利益を拡大させたものの、他品目の利益率低下などにより増収減益。農産品は、馬鈴薯、玉葱の利益改善で増収増益。
- 当事業の業績は、売上高57,088百万円（前年同期比25.6%増）、営業利益757百万円（同75.5%増）に回復。

当中間期品目別売上高構成比



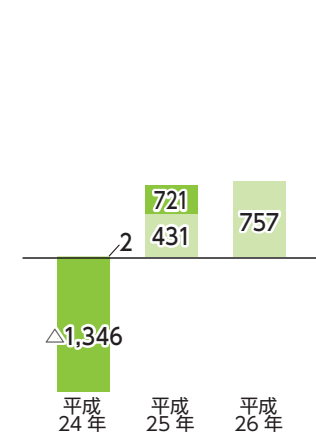
売上高

■ 中間 ■ 通期 (百万円)



営業利益

■ 中間 ■ 通期 (百万円)

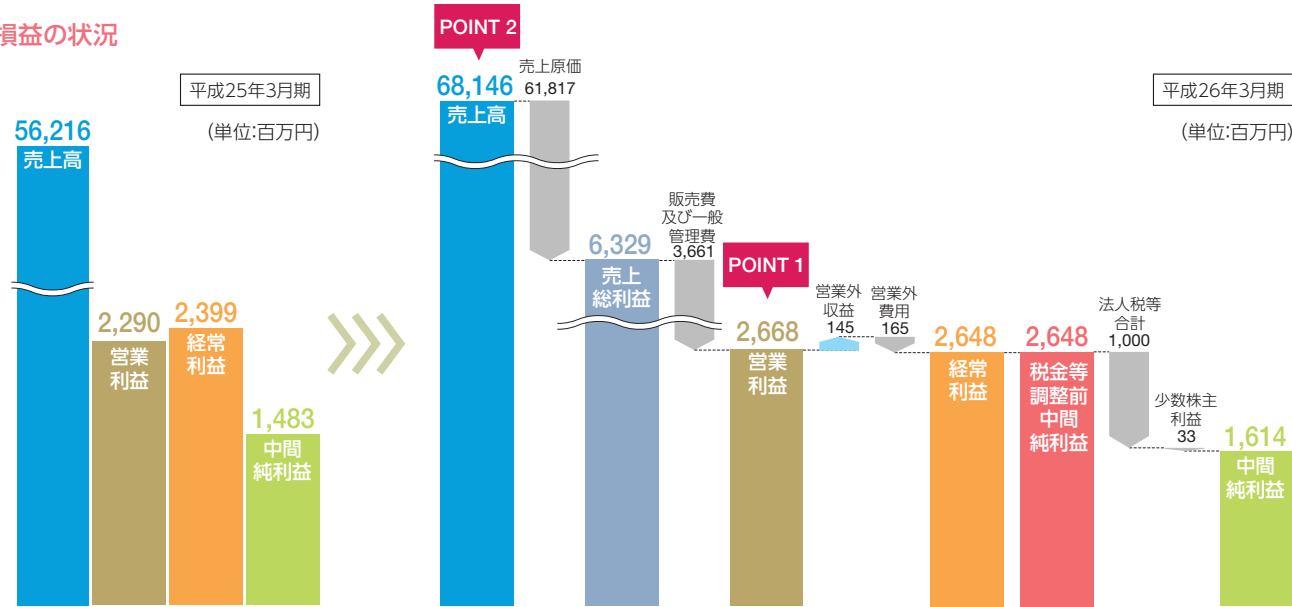


中間連結財務諸表 (要約)

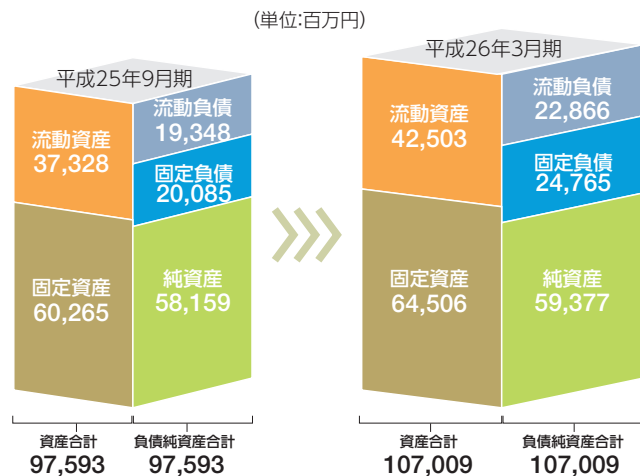


中間連結財務状況

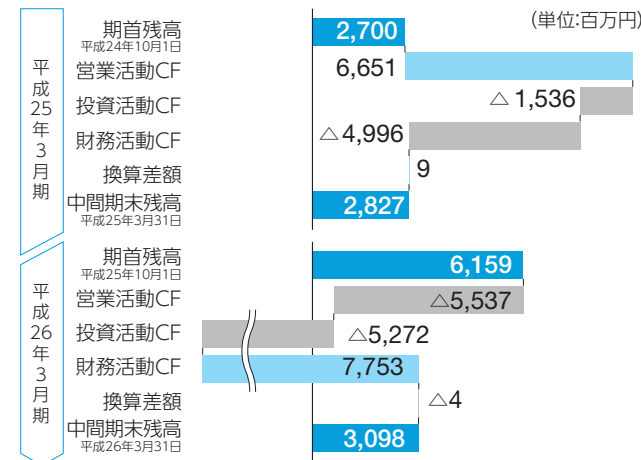
◆ 損益の状況



◆ 資産・負債・純資産の状況



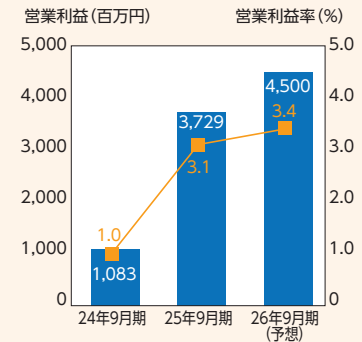
◆ キャッシュ・フローの状況



もっとくわしく!

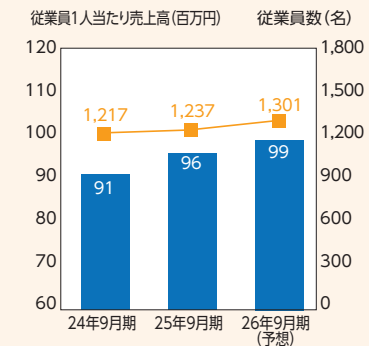
POINT 1 収益体質を改善

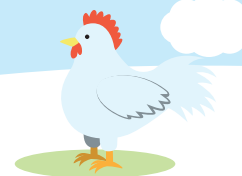
冷蔵倉庫事業の好調と食品販売事業の回復により、収益体質の改善が進んでいます。営業利益率は平成24年9月期の1.0%を底に反転して、平成25年9月期には3.1%となり、当期は3.4%まで上昇する見通しです。



POINT 2 1人当たり生産性が向上

従業員1人当たりの売上高にみる生産性は、平成24年9月期の91百万円から、平成25年9月期には96百万円に上昇。当期には1億円の大台に到達する可能性もあり、人員拡充を上回るペースで売上が拡大しています。





会社概要 (平成26年3月31日現在)

会社名 横浜冷凍株式会社

本社所在地 〒220-0012
横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号
みなとみらいブランドセントラルタワー7階
TEL: 045-210-0011 (代表)
FAX: 045-210-0018

設立 昭和23年5月13日

資本金 11,065,926,625円

従業員数 連結 1,301名 単独 994名

業務内容

1. 冷蔵倉庫業並びに普通倉庫業
2. 水産品の加工、販売並びに輸出入
3. 農畜産物の加工、販売並びに輸出入
4. 不動産賃貸業
5. 通関業
6. 貨物利用運送事業並びに貨物自動車運送事業
7. 食堂及び喫茶店の経営並びに飲食物の販売
8. その他前各号に付帯関連する一切の事業 (定款における事業目的)

役員および執行役員 (平成26年3月31日現在)

代表取締役社長	吉川 俊雄	監査役	棚橋 栄蔵
常務取締役	岩淵 文雄	監査役	西元 徹也
常務取締役	水野 隆明	上席執行役員	中西 啓文
取締役	井上 祐司	上席執行役員	大久保 孝一
取締役	千田 重賢	執行役員	岩倉 正人
取締役	飯島 敏正	執行役員	畑山 敬二
取締役	西山 敏彦	執行役員	竹村 文男
取締役	越智 孝次	執行役員	野崎 博嗣
取締役	松原 弘幸	執行役員	池田 浩人
常勤監査役	田中 明彦	執行役員	藤五 俊治
常勤監査役	阿部 博康	執行役員	花澤 幹夫

ネットワーク (平成26年3月31日現在)

冷蔵倉庫事業 40拠点

北海道・東北ブロック

喜茂別物流センター
十勝物流センター
十勝第二物流センター
石狩物流センター
八戸物流センター
気仙沼冷凍工場
仙台物流センター

関東ブロック

加須物流センター
加須第二物流センター
鶴ヶ島物流センター
東京物流センター
東京第二物流センター

大黒物流センター
横浜物流センター
子安物流センター
山内物流センター
伊勢原物流センター

中京・東海ブロック

小牧物流センター
名古屋物流センター
中川物流センター
沼津物流センター
大井川物流センター

阪神ブロック

北港物流センター
西淀物流センター
舞洲物流センター
神戸物流センター
六甲物流センター

九州ブロック

鹿児島物流センター
福岡物流センター
箱崎物流センター
鳥栖物流センター
鳥栖第二物流センター
唐津冷凍工場
長崎冷凍工場
佐世保冷凍工場
都城物流センター
志布志物流センター
川辺物流センター
枕崎冷凍工場
山川冷凍工場

食品販売事業 22拠点

北海道水産事業部

東北水産事業部
八戸営業所
気仙沼冷凍工場

九州水産事業部

九州水産事業部 (福岡)
長崎営業所
枕崎冷凍工場

佐世保冷凍工場
唐津営業所

松浦営業所
鹿児島営業所

畜産事業部

農産事業部
農産事業部 (横浜)

十勝営業所
東京営業部

東京営業部 (東京)
横浜営業所

沼津営業所

水産原料部

銚子営業所
茨城営業所
名古屋営業部
大阪営業部
海外事業部

連結子会社

株式会社アライアンスシーフーズ
株式会社クローバートレーディング
Thai Yokorei Co.,Ltd. (タイ)
ワンノイ物流センター
ワンノイ物流センター2号棟
バンパコン物流センター
サムロン物流センター

非連結子会社

Best Cold Chain Co.,Ltd. (タイ)
Yokorei Co., Ltd. (タイ)

株式の状況 (平成26年3月31日現在)

発行可能株式総数 160,000,000株

発行済株式の総数 52,450,969株

株主数 13,462名

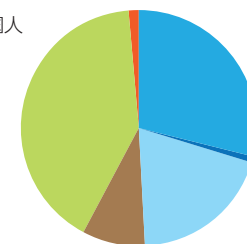
大株主 (上位10名)

大株主名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	持株比率 (%)
第一生命保険株式会社	2,205	4.26
株式会社横浜銀行	2,176	4.21
農林中央金庫	1,473	2.85
株式会社八丁幸	1,411	2.73
横浜冷凍従業員持株会	1,196	2.31
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,181	2.28
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,077	2.08
株式会社松岡	1,034	2.00
株式会社サカタのタネ	1,022	1.98
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	949	1.84

(注) 持株比率は自己株式 (704,358株) を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況

■ 金融機関 15,124千株 28.9%	■ 外国法人・外国人 4,398千株 8.4%
■ 金融商品取引業者 589千株 1.1%	■ 個人・その他 21,454千株 40.9%
■ その他の国内法人 10,179千株 19.4%	■ 自己名義 704千株 1.3%





安全で、もっとおいしく。 日本の豊かな「食」を支える輸入畜産品。

現在、日本には世界中から多くの畜産品が輸入され、私たちの食卓に上がっています。その中でもよく食べられている牛肉、豚肉、鶏肉の主な輸入先やトレンドをご存知でしょうか。




■ 輸入規制の緩和で、よりおいしい肉が食卓に

日本の食肉消費は、牛肉の約6割、豚肉の約5割、鶏肉の約4割を輸入でまかっています。特に豚肉と鶏肉については、世界最大の輸入国でもあります。平成24年度の輸入量は、牛肉が505,720トン、豚肉が759,778トン、鶏肉(ブロイラー)が422,898トンでした(以上、独立行政法人農畜産業振興機構「畜産物の需給関係の諸統計データ」および財務省「貿易統計」より、いずれも生鮮・冷蔵と冷凍の合計値)。

牛肉の主な輸入先は、オーストラリア、アメリカ、メキシコ、カナダです。平成25年からは、米国产牛肉の輸入規制が月齢30ヵ月以下まで緩和されました。育成期間が長い分、これまでよりも脂の乗った良質の牛肉が市場に出回っています。

豚肉の主な輸入先は、アメリカ、カナダ、デンマーク、チリです。中でもチリは、生育環境が優れており、日本人好みの豚肉を生産できます。また、家畜伝染病が発生していない清浄国でもあります。

■ 日本の牛肉・豚肉・鶏肉輸入先

 牛肉の主な輸入先	オーストラリア、アメリカ、メキシコ、カナダ
 豚肉の主な輸入先	アメリカ、カナダ、デンマーク、チリ
 鶏肉の主な輸入先	ブラジル、アメリカ、タイ

鶏肉の主な輸入先は、ブラジル、アメリカ、タイです。平成25年末、輸入停止だったタイ産の生冷(フレッシュ)鶏肉が10年ぶりに解禁となりました。これまでのタイ産は、フライドチキンや焼き鳥などの加工品がメインでしたが、今後は生冷の鶏肉も加わり、日本の食卓をより豊かにするでしょう。



クローズアップ! ヨコレイLADY

強みを活かして、お客様のニーズにかなった低温物流サービスを提案します

私は、入社1年目に東京第二物流センターで入庫業務に携わっていました。その後は事務職を経て、販売部門に7年間籍を置き、昨年からは当センターに戻って今度は営業を担当しています。

当センターが取り扱うのは、ほとんどが輸入食品で、かつてはエビを中心とする水産物が約8割を占めていました。しかし近年、漁獲量の減少と顧客である水産会社や商社の在庫低減傾向を受け、その一方で畜産品は牛肉を中心に拡大しているため、現在は水産品と畜産品がほぼ半々の割合となっています。

当センターの営業方針としては、引き続き畜産品の集荷に注力しつつ、水産品においても原料だけでなく加工品の扱いを増やし、売上拡大を図っています。さらに、輸入のみならず国内貨物も対象に顧客を開拓し、取り

扱いの幅を拡げていこうとしています。

営業の仕事では、常に「お客様が何を必要としているか」を考えたベストな提案が求められます。私の場合は、販売部門での業務経験で得た知識や情報が生きてくることも多いです。また、当センターの特長である業界トップクラスのキャパシティや、通関業務も含めたトータル物流サービスの利便性、天井ヘアピンコイルによる荷物にやさしい冷却方式などが、営業提案において大きな強みとなります。

この仕事には、私自身が顧客開拓し、集荷した貨物が物流センターを稼働させるという醍醐味があります。それだけに大きな責任を自覚していますが、同時に、職場の多くの社員が自分を支えてくれる心強さもあり、そこにやりがいを感じています。

東京第二物流センター 主任
営業担当 塚田 みな





ヨコレイくん

タイ国で新たに物流センターを新設

平成25年12月、タイ国アユタヤ県にあるワンノイ物流センター隣接地に「ワンノイ物流センター2号棟」を新設しました。同センターは、日本国内仕様の最新設備を導入し、これまでのタイ国の低温物流になかった高品質なサービスを提供します。また、保管から輸送・配送業務までの一貫した低温物流サービスで、多様な食品物流ニーズに応えます。

また平成26年3月、タイ国チャチュンサオ県バンパコン郡にあるバンパコン物流センター敷地内に「バンパコン第2物流センター(仮称)」を着工しました。経済発展の目覚ましい同国は、低温物流ニーズが飛躍的に拡大しつつあり、第2物流センターの新設によりタイ国でのさらなる事業拡大を目指します。



名称:ワンノイ物流センター2号棟
規模:収容能力 約27,100トン



名称:バンパコン第2物流センター
規模:収容能力 約23,000トン

株主メモ

事業年度	10月1日より翌年9月30日まで
定時株主総会	12月 定時株主総会の議決権 9月30日
基準日	剰余金の期末配当 9月30日 剰余金の中間配当 3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告した日
公告の方法	電子公告 ※電子公告は当社ホームページに掲載します。なお、やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載します。 http://www.yokorei.co.jp/investors/investors/electronic-public-notice/
単元株式数	100株
上場取引所	東京証券取引所(第1部)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話:0120-232-711(フリーダイヤル)

(ご注意)

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主還元方針

■ 配当方針

当社は、株主の皆さまに対する利益還元の実施を重要な経営課題の一つとして認識し、安定的な配当を継続して行うことを基本方針としています。企業価値向上に必要な設備・IT投資等を勘案しつつ、配当性向40%以上を維持していくことを目標としています。

1株当たり年間配当金
20円 (中間配当金 10円)

■ 株主優待

当社は、株主の皆さまからのご支援に対する感謝とヨコレイグループの事業内容をご理解いただくため、年1回、ヨコレイグループ取扱商品を以下の基準でお届けいたします。

対象株主 毎年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された1,000株以上保有の株主さま

実施時期 11月下旬から発送を予定しています。

ご参考(平成25年9月期優待内容)

- 1,000株以上~3,000株未満 保有の株主さま
「鮭切身詰め合わせ」 鮭切身(約1,000g)
- 3,000株以上 保有の株主さま
「北海道産のホタテ・いくらセット」 いくら醤油漬(500g)、生食用ホタテ貝柱(1,000g)



ホームページのご紹介

▶ <http://www.yokorei.co.jp/>

ヨコレイのホームページでは当社の最新ニュースや事業紹介に加え、IR情報が一目でわかるIR情報インデックスや財務ハイライトなど、個人投資家の皆さまに当社を深くご理解いただけるよう、様々なコンテンツを掲載しております。また、食の安全・安心や環境、社会貢献活動などのCSRの取り組みをご紹介しております。ヨコレイでは、今後もさらにわかりやすく、充実したホームページを目指してまいります。



TOPページ

IRページ